

平成 2 8 年第 3 回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成 2 8 年 9 月 5 日 (開会)

平成 2 8 年 9 月 1 5 日 (閉会)

日程第4 一般質問

○議長（小林信） 日程第4 一般質問を行います。

質問の通告がありますので、発言を許します。6番、大城戸ツヤ子君。

（6番 大城戸ツヤ子議員 一般質問席登壇）

○6番（大城戸ツヤ子） かみこあに保育園運営について、3点質問いたします。

3月の議会で、上小阿仁保育園運営について質問したところ、保育園に関しては、今後、プロジェクトを立ち上げ、杉風荘の民営化に合わせて検討していきたいとの答弁でした。

かみこあに保育園は、昭和54年12月に建設されていて、もう37年になろうとしています。数回にわたり補修、修繕を繰り返しながら今日に至っていると思います。

現在、クラス編成は6組ですが、保育室は5室で、遊戯室や乳児ほふく室を兼ねていて、事務室からは園児の姿は全く見えない位置付けになっています。

平成21年4月には、認定こども園となり、保育事業が広がりましたが、建物は古くなり不便だけが際立っています。もちろん、事務室には冷房は付いていません。

広報7月号によると、老朽化してきている公共施設については、維持管理やコンパクトの観点から集積化を検討すべきと述べていますが、保育園の新築は考えていませんか。

次に保育園職員の待遇についてですが、同様に、これも3月の定例会議会でも質問しています。4月には、村施設等運営改善プロジェクトを立ち上げています。

平成28年度のかみこあに保育園の園児数は、9月1日現在、定員60名に対して38名です。職員構成は園長1名、保育士7名、保育補助4名、調理師2名です。大事な子どもを預かる保育園は正職員の3倍以上が臨時職員です。資格を持ち15年から20年以上のベテランの方々が保育事業を支えています。正職員と臨時職員との格差は広がるばかりです。

国はよく同一労働同一賃金を目指すとしていますが、上小阿仁村はどうでしょうか。村長は、一生懸命努力する人が報われる村政を目指すと申しますが、職員の待遇はどうなっていますか。

次に、完全給食の実施について質問いたします。

昨年、保育園に入園させている親から、「保育園で食べるご飯が冷たいので何とかならないかしら」という声がありました。私はどういう意味なのかよく理解できませんでした。私も子どもを保育園に入園させて働いていたことがありますので、保育園の給食がどうして冷たいのか良く分かりませんでした。3歳以上児になると、ご飯を持参するというのを全く知りませんでした。

かみこあに保育園での給食は、3歳未満児は主食プラス副食の完全給食です。

3歳以上児は副食給食となっていて、ご飯持参です。しかし、国では、県或いは市町村が条件さえ満たせば、3歳以上児でも主食プラス副食の完全給食が可能となっています。

昨年、北秋田保健所の栄養課長にお願いをしまして、秋田県の認定子ども園の給食状態を調査していただきました。

秋田県には8箇所保健所があります。しかし、北秋田保健所を除いた7箇所の保健所管内で完全給食、または自らご飯を持参してもよいということで実施されています。

村での完全給食の実施は如何がですか。

以上です。

○議長（小林信）答弁を許します。はい、村長 小林悦次君。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） しみこあに保育園の運営につきまして、3点のご質問であります。

1点目のしみこあに保育園の建物は、古くなり、新設は考えておられるかというふうなことであります。

これにつきましては、先ほど議員の方からもお話があったとおり、しみこあに保育園は、昭和54年12月の建設であります。平成14年度に、屋根、給水管、それから遊戯室の床、外壁の大規模改修を実施しておりますけれども、言われたとおり建設後約37年が経過し、ご指摘のとおり老朽化が進行しており、いずれは改築の時期を迎えることになります。

また、もともと、2歳児以上の入園を想定した建物であることから、現在、ゼロ歳児からの入園や子育て支援に要するための部屋につきましては、種々の対応をしている状況となっております。施設を整備するにあたっては、施設の建設時期、場所、規模や財源、それから他の公共施設のバランスや維持管理費など、総合的な観点からの対応が必要となりますけれども、建設にあたっては民間の場合に限って補助事業の対象になっておりますので、運営についても検討することが必要であると考えております。

2つ目の保育園の職員の待遇についてであります。

保育士の募集につきましては、臨時職員で、有資格者の応募はなかなかないのでありますけれども、正職員であれば、地元の就職先として魅力的な保育園であるというふうに思っております。

これまで、保育園児の減少や保育園の統合等に対応するために、正職員の採用を控えてきた経緯があります。今後は、住民のニーズとサービスの向上を念頭に村が直接運営するのか、民営化や業務委託等の、それぞれの対応をとるのか、それぞれのメリット、デメリットを、上小阿仁村施設等運営改善プロジェ

クトチームで検討してまいりたいというふうに思っております。

3つ目の完全給食の実施についてであります。

3歳以上の園児につきましては、主食のご飯を各家庭で準備してもらっており、冬季期間は暖房設備を活用し、弁当が冷たくならないように対応をさせていただいております。主食の持参につきましては、保育所運営費国庫負担金の算定基準にある給食材料費に、3歳以上児の主食が含まれていないこともありますが、弁当用のご飯を用意することが、各家庭でも毎日朝食をキッチンと食べていただくことにつながるのではないかというような理由も含んでおるというふうに思っております。

秋田県内での完全給食の実施状況につきましては、全ての保育施設を調査したわけではないのですが、公立の保育施設では、3歳以上児はご飯持参、私立の保育施設では完全給食を実施しているところもあるという傾向で、この場合、保育料とは別に主食代をいただいているようであります。

かみこあに保育園で、完全給食を実施するには、保護者の費用負担や食器、炊飯器等の設備の整備等も必要になりますので、今後、保育園の改築等施設整備に合わせて、検討をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（小林信） 6番、大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 今の村長では、改築なのか或いは新築なのか、検討するということで、全然、私には進歩のない返事、回答であったなと思います。

では、建物についてですけれども、別の角度からお話したいと思います。

この3月に、上小阿仁村人口ビジョンが出されました。人口の将来展望では、上小阿仁村の合計特殊出生率は、2010年で1.42です。2015年では1.48です。秋田県25カ市町村中12位です。秋田県は平均1.36ですので、上回っています。さらに、示されている仮定値は、2020年、オリンピックの年ですけれども、これは1.54と上昇しています。

日本、あるいは県、本村パターン3の2060年までの仮定値が出されていますが、人口減少が著しい本村にとって、この仮定値が事実とすれば、それは全くうれしい限りです。そのためにも保育園の新築を考える必要がありませんか。

安心して子どもを預ける施設の充実、或いは子育てしやすい環境、福祉の充実を図るべきと考えますけれども、その点、全く後ろ向きというか、全然進歩のない、不便な環境の中でゼロ歳児も、ゼロ歳児と言っても6ヶ月とか7ヶ月の赤ちゃんとか1歳児と、ハイハイしたり、走り回っている状況を見たら、私は、とっても親としては預けられません。まして、そこには絶対子ども同士の咬みつきとか、いろんなことを想像してありますけれども、もう、見ただけで狭い、6畳以下の小さいスペースで走りまわっていたり、寝たり、そういう状況です。

さらに、待遇ですけれども、広報8月号では、一般職或いは保健師の募集をし

ていました。これに該当する人は、もう正職員ですけれども、園長は来年3月で定年退職と伺いました。後継者となる人材は育っていますか。例えば、さつき村長も話していましたけれども、人口減少に伴って子どもが減少し、もし保育園が閉鎖になったとき、あるいは民営化になったとき、保育士への対応が困るので、採用できないということも、どっかで耳にしました。

全く今、保育園のそういう福祉の関係は遅れています。給食でもそうです。子ども達の完全給食を願っていますけれども、私も去年の8月、或いは今年の2月、保育園で夏は3日間、冬は2日間体験しました。おにぎりを持って行って体験しました。わざと夏と冬を体験しました。

夏は、リュックに入れたままの状態にかけてあります。それでそこから出して、ご飯をおもむろに出します。冬は、やはりさつきお弁当箱に入れて温めるということをお話しましたけれども、私が見た今年は、そういうことは全く見受けられませんでした。そのとおりリュックから出して食べていました。私もおにぎりを事務室に置いていましたから、その環境で一緒にお子さん達と食べました。はっきり言って冷たかったです。だから、保護者からの心配、声というのは、夏はリュック入れたままの状態なのでご飯が腐らないか、或いは冬はご飯が冷たいのではないかということを言われているんです。

そして、27年度の1年間振り返りアンケート報告では、保育園に対する回答は概ね良い結果となっていますが、要望としては、小中学校のように、ご飯も給食に出してくれればいい。温かいし、ご飯のメニューも増えて良いのではないかなという答えということでした。

また、おやつの補食の工夫も必要がありますというコメントがありました。こういうことを総合的に見た時、今、54年に建設された建物がどこも古くなってきています。もちろん、村長だって、入園式、卒園式、いろんな状況で保育園を見て回っていると思いますけれども、そうした環境の中にお子さんを入れて、本当に子どもを大事に宝として育てる村と考えていますか。

お答えください。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 人口の少ない当村にとりまして、人口減少というのは、今後も当分の間続くというふうなこと、これは上小阿仁村だけでなく、日本全国、そのように進むというふうなことで地方創生という事業がスタートしております。

それに合わせて全部の市町村が、何とかして人口減少を食い止めたいというふうなことで、若い人方の環境整備、生活環境を整備をしていきたいというふうなこととなります。

そういう意味で、先ほどお答えをさせていただいたとおりでありますけれども、建物等についても、場所、それから維持管理の部分、財政的な部分につきましては、いろんな補助事業が対象になる場合とならない場合がありますので、どういうふうにすれば、村にとって一番いいのかというふうなことを総合的に検討を、これからさせていただきたいというふうなことになります。

ですから、議員が言われるとおり施設そのものについては、十分であるというふうなことについては、誰も思っておらないというふうに思っておりますので、できるだけ早く、そういう問題をクリアしながら、村の宝であります子ども達を何としても一番いい条件のもとで生活ができるようにしていきたいというふうに考えておりますので、総合計画、財政計画をもう少し、キチットした形で見直しをさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（小林信） 6番、大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） そうすると、人口ビジョンに出された数字というのは、考えているんですか。上小阿仁は人口減少ですけど、若い人達は子育てで頑張っているんです。私は、この数字を正しいと見たいんです。信じたいんです。

ですから、そうなったら今の建物は、補助事業とか、それを対象にみるとか、あまりにも後ろ向きですよ。政策事態が。福祉を掲げている村だったら、もうチョット考えてみてください。

それから給食のことについては一切お答えありませんでしたけれども、ぜひ進めてくださいよ。お金、計算しました。私も立場上いろいろ簡単に進められないと思ひますから計算しました。それは無理に言っているわけではありません。一応、調理師さん達にも、これできるかどうか聞いているんです。そうすると器具、炊飯器その他の器具あれば可能と言っています。だから、調理さん達には、20名くらいです。たった20名くらいの園児が、どのくらい、8合くらい炊けばいいんです。8升ではないんです。

そういうのを1回に食べる3歳児以上のお子さんは、1回にご飯として100グラムくらいなんです。それで、保育園の担当者にお話を伺いました。現在、保育園の給食費用は6,500円前後くらいです。3歳未満児は6,800円と言ったかな。それから3歳以上児は6,200円。主食は入っていません。だから、そういうことでいくと、平均して6,800円くらいになります。年間20万円くらいになります。ご飯を1回100グラムとして、それで1カ月25日計算ということでしたから、それを1,000円とすれば、約25万円以下になります。それで私達は、冬は皆さん、お家へ帰ったりしてご飯を温かいご飯食べているのでないですか。役場職員の皆さん。

そうすると子ども達は、おつゆはぬるま湯、それぞれできたて出てきます。

でもご飯は冷たいのです、はっきり言って。もう一度園長先生へ聞いてください。温めてご飯を食べさせているのか。私は、見た限り、2日間そうでした。それを全部と言いきれませんが、そういう環境の中で子ども達はおいしいとも、まずいとも、ただ冷たいとは言っていました。味噌汁があったかいだけに。ですから、ぜひ、ここは考えてください。秋田県を調べてどうこうでないです。たった上小阿仁村独自でできる政策でしょ。もうチョッと子ども達にご飯がおいしいとか、そういうことを伝えていただきたいと思います。

かっこよくすれば、朝食をみんな一緒に食べましょうとか、ご飯を炊いてと言いますが、その事情は皆どこでも全国同じです。私達もそういうことをやってきました。ですから、たった20人そこらで検討するとか、金額がどうか、そういうことは言われていません。たった20万円そこそこですよ。年間、ぜひ、もう一度検討してみてください。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） いずれ、先ほどご説明したのは、施設の建設と合わせて、給食の施設の方も検討したいというふうにお話をさせてもらったつもりでしたが、そのようには受け止められなかったのが残念でしたが、いずれ、今、議員の方から言われたように簡単にできるようなものとあるとするならば、これから検討させていただきたいというふうに思います。

もう少し時間をいただいて、調査をさせていただきたいというふうに思います。

○議長（小林信） 大城戸君。

○6番（大城戸ツヤ子） すいません、村長、調査って何ですか。こんなに具体例を出して、自分も管理栄養士として、あそこに入って行って、できる、できない、あるいは調理師さんにも伺って大変なことを求めているのか、全部見ているんです。だから、村がゴーサインすれば、彼女ら皆やってくれるのです。

それを総合的に建築とか、新築とか、そういうことでできないとか、そういうことでは、どうしてですか。チョッともう一度検討してみてください。

園長さんとか、皆、調理師さんとか、それぞれの立場でやっていますので。では、続きまして次の質問を伺います。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） では、2つ目です。

活力のある村づくりについて、質問させていただきます。

過疎地域にもかかわらず、芸術の村として、また、伝統芸能の継続に力をいれ、「伝統芸能の発表イベント」など、何とかして活性化しなければいけないという住民の意識が高まっていますが、行事を楽しみ、お酒を飲みながら語り合

い、そして、地域の親交を深める場が少ないと思います。

コミュニティの維持強化のために、村民全員参加の「運動会」のような催しは如何でしょうか。村長。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 全村民を対象にした村民運動会等についてのご質問だと思います。

同様の行事につきましては、平成15年まで、村民体育祭というふうな形で開催をしていただいております。これは集落対抗戦というふうな形でやりましたので、選手のとりまとめから世話までを集落会と一体となって対応してまいりました。しかしながら、段々と集落で選手の確保が難しくなったり、応援を含む参加者が減ったことが要因となって取り止めをしたと、仕方なく取り止めをした経緯があります。

集落対抗以外の団体戦にするとか、個人戦にするとかなど、どのような方法で、今後開催するのが可能なのか、種目をどう考えるのか等でできますけれども、若い方々の参加が不可欠と考えておりますので、運動会だけでなく、グラウンドゴルフ等のレクリエーション大会等を含めた、そして交流会の組み合わせなども考慮に入れて、今後どうしたらいいのかというふうなことを、集落会長などの意見をお聞きしながら、今後検討させていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 私も、この村民全員参加の運動会ということで、今までの催しもの、私も空白40年間ありますので、どういふのがあつたのかチョツと調べてみましたら、昭和34年に第1回村民体育祭、ですから、さつき村長がおっしゃいましたように、平成15年で45回の村民体育祭が開かれて、最後は堂川地域が優勝で頑張つたトロフィーもありました。そういうのを見ております。

また、平成9年には小田瀬の地区で「ふれあい広場」という所で「桜祭り」が開催されています。平成21年からは、社協主催の地域ふれあいデーが開催されていましたが、これも4回で終了しています。やはり、さつき村長がおっしゃいましたように、いろんな催しをするのに対しては、リーダーには負担がかかります。ですから、そういう意味で人口が減つて、各地域、集落のそういう村民対抗の競争意識のレクリエーション的なものは不可能になつてきたといふのは、私も重々分かつています。なぜこういうのを話題にしたかといふと、私が、やっぱり議員になつて、小沢田集落の若勢団の皆さんとよく話をする機会が増えました。ただ、飲み会だけではつまらな。ですから、何か皆が楽しむことをやりたいといふこと、何かありませんかといふので、飲む度、年に4、5回飲み会

がありますけれども、本当にそれをお話するのです。ただ私は、そうですか、そうですかというわけにいかず、私も必要だなというのを感じていて、こういうふう頑張っていて、或いはまた頑張ろうとしている若い人達に、やっぱり皆で協力して、中には集落によっては、若勢団を維持できない地域もありますけれど、ぜひ、こういう人達が頑張ろうとしているところを救ってあげないと、この村は繁栄できないのです。

ですから、保育園の運動会、もちろん私も見させていただきました。小中学校の運動会も見に行っています。でも、たまたま立場だったから見に行っているのです。わざわざあそこの高台まで車を押ししたり、なんだりしては行けませんよね。また、どっか場が違うのですよ。いくらおじいちゃん、おばあちゃん、見に来てくださいと声をかけられても、何かどこか空気が違う。ですから、私は、そういう意味では、この保育園の運動会、あるいは小中学校の運動会には住民を巻き込むのは不可能だなというふうに感じています。

村長もおっしゃいましたように、本当に検討だけでなく、1年から2年以内に復活させるとか、そういう前向きな、元気な、そういう回答がいただきたいですけど、どうですか。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 議員の言われるとおりでありまして、私もスポーツに関しては、健康づくりを進めている一人であります。何としても、そういう健康というのは、肉体的な健康と精神的な健康があると思っております。ですから、議員が若勢団等で集まってお酒を飲みながらお話をすることは、精神的な健康につながっているものと思っておりますので、それをできるだけ参加者を増やすという意味でも、やはり、少し汗をかくとか勝負事を少しやって、それを話題にしてコミュニケーションが図られるというふうなことに繋がれば、本当にいいことだというふうに思っておりますので、これまで、いろんな形で取り止めた経緯はありますけれども、もう少しいろんな形で対応が可能だとすれば、何とかして復活できるようなことを、これから皆さんと共に考えていきたい。

そして何としても、やはり、全村的な行事とするためには、どうしても集落会のご協力がないことには進まないというふうに思っておりますので、そういう方々のご協力、ご意見等も聞きながら今後対応させていただきたいと思いません。

ぜひとも、議員が言われるような形で対応できるような形にしたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） はっきり言って集落のリーダーの名前も何と言うのか

決めているのかよく分からないのですけれども、やっぱり集落のリーダーの方は本当に忙しいです。ですから、今までこういう行事を見ている職員が参加が少ないのです。例えば、夏のおらがふるさとのフェスティバルは、民間に委託していますから、それは別に担当者の方が数名入れば、それで外は見守りをするというのはいいと思いますけれども、いろんな催しがあっても、村の職員が、村長以下いらっしゃると思いますけれども、担当部署の課長さんだけが出て、何か行事が進んでいるように私は見受けられます。

何でも盛り上げる必要があると思います。そういう時には、やっぱり、職員が自ら、自らには限度があると思いますけれども、そういうふうに汗水流そうという意識が、私は、職員にないので、そういう運動会を企画することによって皆が頑張る。それから、活力のある村づくりになるのではないかと。大体職員、はっきり言って私の家、知らない人がいました。びっくりしました。もともといいんですけれども、それだったら何も協力できませんよねっという、そういう個人的なことを感じたところもあります。

ですから、やっぱり職員を含めて村が、住民が一体化となってやらないと楽しめません。リーダーだけではなく、村長の部下である皆さんにもハッパをかけて、ぜひ、この地域活性化のためにも、また、住民が住み続けたいと思えるような環境づくりに一歩、もう一度踏み出していただけませんか。

もう一度お答えをお願いします。住民のリーダーだけでなく、職員を巻き込んでやっていただきたいと思います。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 議員の言われるとおりにというふうに思っております。

そういう意味で、職員の意識改革というふうな形での研修会をこの間、開催させていただきました。少しずつではありますけれども、意識改革をしながら、村民のため、住民のために、職員がボランティア活動ができるような体制をとっていきたいというふうに思っております。

今後とも、いろんな形で職員の指導等も含めてご協力いただければありがたいというふうに思っております。ぜひとも対応できるように皆で、村が活性化するように頑張らせていただきたいというふうに思いますので、よろしく願いをしたいと思います。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 私は、職員だけに頑張れとは言っていない。やっぱり、私達も、議員も含めてそうですけれども、前向きに捉えて住民が楽しめる、そういう一つずつでもいいです。2年に一度でもいいですから、ですから頑張れるような企画をぜひお願いします。

以上です。

○議長（小林信） 6番、大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 続きまして観光産業について、2点、質問します。

村では地域の観光振興に取り組むため、DMO、観光地域づくり推進法人に加入しました。

大いに期待するものですが、加入しただけではどうにもなりません。

コブ杉と天然秋田杉の林だけでは、観光につながりません。南沢集落は19世帯で36人が住んでいると伺いましたが、この集落には貴重な資源があります。四季折々の自然豊かな景色は心を癒してくれます。

それこそ、この地域全体が村のアートであると私は感じております。また、秋田県活力ある集落づくり支援室が運営する秋田元気ムラにも所属して活動しています。そこで、この地域こそ観光スポットにすべきではないでしょうか。

さらに、次に、村の築堤周辺に桜の木の植樹についてですが、上小阿仁村は、緑に囲まれていて素晴らしい所です。しかし、春になると住民の皆さんは桜花見といって、上小阿仁以外に車で出かけて行くようです。村で桜見物、花見ができる場所はどこでしょうか。例えば、東京の話で申し訳ないですが、東京は緑が少ないといっていますが、庭園、公園はよく手入れが届いており、散歩コースはたくさんあります。ご存知のように東京のど真ん中に代々木公園や明治神宮などがあって、緑は素晴らしいものがあります。

しかし、上小阿仁村にそんな場所ありますか。弁当持参で、花見に行く場所、探しても私には見つかりません。例えば、道の駅から各地に築堤があります。桜の木を植えませんか。特に、小田瀬築堤には桜が植えてありますが、さらに増やすことで楽しめると思いますが、如何でしょうか。

よろしくお願いします。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 観光産業についてであります。最初の南沢集落に関する素晴らしい景観と元気ムラがあると、この地域を観光スポットにすべきではというふうなご質問であります。

村には、ご存知のとおり萩形キャンプ場、それから仏社地区に山村広場、コブ杉、太平山、萩形溪谷、大錠溪谷、大滝沢森林空間、健康増進広場、これは山ふじ温泉の向かいになります。それからマトビなどの観光資源がありますけれども、誘客等の事業活動が乏しいことから経済効果は低いというふうに思っております。

これらをインバウンド化に結びつける目的で、秋田犬ツーリズムに加入をさせていただいております。今後、秋田犬ツーリズムのホームページに旅行メニ

ューを掲載し募集することとなることから、メニューとして活かせる内容を検討してまいりたいというふうに思います。

南沢集落につきましては、平成21年5月18日に開催されました南沢、不動羅、中茂、八木沢座談会において、県の活力ある農村集落づくり推進チームをお招きいたしまして集落の将来構想等を協議して、元気ムラプロジェクト事業が始まりまして、冬季間の除排雪作業実証実験が始まっております。以後、県が中心となりまして、南沢集落の元気ムラ活動を支援しているというふうな状況であります。

南沢集落では、元気ムラ活動に積極的に取り組んでおられまして、東成瀬村の椿台地区との重箱交流を毎年実施しておられるとともに、地元から古くから、昔からあったクリ、ミョウガ、クルミを県の協力のもと五城目町とともに千葉県のスーパーに出荷をしております。村としても支援できることは積極的に支援し、できれば、南沢地区がモデル地区となりまして、他集落に、その活動の輪が広がるように体制づくりを目指していきたいというふうに考えております。

観光面では、先ほど言われましたとおり、素晴らしいところであります。栗林等の環境に恵まれておりますし、元気ムラ活動との連携をとった観光資源化に向けて今後とも検討をさせていただきたいというふうに思います。

あと、村の築堤周辺に桜の木の植樹というふうなことになりますけれども、築堤等の植樹につきましては、過去に、在る団体が生涯学習センターの裏の方にも、小阿仁川護岸に桜の木を植樹した経緯があります。しかしながら、多分土質等の問題等もあったのだと思いますけれども、残念ながら定着をしております。

観光スポットとして魅力を感じますけれども、周辺に植樹が可能か、それから与える影響等を考慮しながら検討させていただきたいと思っております。

これにつきましては、将来的な維持管理についてしっかりと計画がないと、例えば、周辺の農家の方々に迷惑がかかると、やはり草刈り等、病害虫等、いろいろな問題が出てきますので、これをキチットした形で対応していかないといけないというふうに考えておりますので、そういうふうな体制作りができるようにして、少し検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 村長は、先日、台湾にトップセールスのために出かけました。では、上小阿仁村の売りはなんだったのですか。

例えば、新聞情報によると8月20日、DMOのワークショップが開催されましたが、上小阿仁担当者は参加していますか。私は、どうも何か及び腰ではないかと思います。私も簡単には言っていません。やっぱり、何故かという、私も南沢のあそこの光景が大好きですから、今からでなくてもずっと平

成21年から帰ってきた時、春から秋にかけては、南沢地区までサイクリングしています。チョッと上り坂もあって体力的には厳しいけれども、でも、それを体力増進のためだと思って、南沢までママチャリで走っています。

その秋の紅葉は本当に素晴らしくて絵ハガキになる。もちろん285からはほとんど見えませんので、わざわざ自転車で行かないと見えない光景です。それで、地元の人に聞くと、私だけが知らないかもしれないですが、老い知らずの滝という滝があって、水は流れていませんので、ああいうところも再生したいなと村の人達は言っていました。だから、お金を村で出してくれればいいのですけれども、南沢集落の人達は、後継者もないし、いつまで続くか分からないけれど、この景色を守りたい。桜を植えたい、ということをごとく言っています。

今、村長の話を知ると、はい、病虫害の管理だとか、はい、周辺の害だとか、いろんなことを、今までの経験からおっしゃっていますけれども、そうしたら他の地域でそういう桜の周辺、桜見物するところできませんよね。そういうのを恐れていたら。だったら上小阿仁村の250万円も出して何をメインで売るのですか。私は、本当に疑問を持っています。250万円かけたら何かできるのではないですか。私は、むしろ思っているのです。

ですから、観光プランを考えるときに、大林地区から一体、大林のコブ杉、南沢地区の景観或いは大錠溪谷、例えば、これから続けるかもしれないけれど分からないですが八木沢地区のアート、萩形溪谷、萩形キャンプ場、その溪谷釣り、パンフレットで千円とか書いていますけれども、そういうのは合わせたら上部ですよ、その周辺が全部観光につながるのですよ。景色が、村長の言っている上小阿仁村がアートだとおっしゃっている、あそこ一体が観光になっているのです。もうチョッとそこを、ああ、あれがかかる、これがかかる、はい、それは私も分かります。住民の協力なしにはできないでしょう。しかし、自ら頑張ろうと計画を立てなければ進めません。

何で呼ぶのですか。マトビ、同じです。私、4年間くらい案内していますので、去年の3月もマトビ。ですから、それは地区で皆頑張っていますけれども、マトビ一本では売れません。もうチョッとその今本当にきれいなコブ杉だって、私は行ってこんなに素晴らしい林というか、あれは立派です。

でも、上小阿仁村の人、あんまり行かないでしょ。宣伝もしてないし、だからそういう意味では、ぜひ、いろんな条件を揃えたら全くマイナスばかりです。何でプラス志向に考えられないのでしょうか。

もう一度お願いします。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 言われるとおりの観光施設、そして観光に値するような行事等、たくさんあります。

いわゆるそれは、ソフト事業も含めてですけれども、そういうものを組み合わせをしながら、いわゆる点と点を結んで線にして、線と線を結んで面にしていくというふうな形での全容を今回検討させていただきました。それは、大館市、小坂町、北秋田市というふうなことで、同一の、同様の、例えば、アート等についてもつなげていきたいというふうなこともありますし、秋田犬というふうな形で、秋田県全体をPRしていきたいと、それは、全国でもあるし、それは諸外国に対して、いわゆるインバンド化を進めていきたいというふうな形での内容になっております。

そういう意味で、村の特徴的なものを何とかしてつなげていきたいというふうな形で対応させていただきたいというふうなことであります。

南沢地区については、本当に高齢化が進んでおりまして、最初のスタートの時点では、もう私達は、もう何年できるのですかというふうな言い方されました。でも、何年やれば満足するのですかというふうなことの話をしました。

やれる時に、やれる人が、やれるまで、少しだけ無理をしながら経済的効果を反映させながら続けていきたいと思います、というふうな形でスタートして、段々その輪が広がっていきまして、できれば先ほど説明したとおりの南沢地区の、というふうないい部分がモデル的な部分となって、他の小さい集落の高齢化の進んでいるところに広がって行って、自分達のやれるものを、やれる時に、やりたい人達で少しずつやっていくというふうなことに繋がって、もしかしたら道の駅、そして、それでも駄目であれば先ほど言った千葉県のスーパーの方にも、県の仲立ちでしっかりとした形で出荷もしております。ですから、そういうことが広がっていけばいいなというふうな形で思っています。

それから桜の木の件につきましては、やっていただける部分については一生懸命頑張る人を応援したいというふうに思っておりますので、ただ先ほど言ったように少し失敗した例もありました。ですから、その失敗を二度と繰り返さないようにするためには、ただ植えて終わりというふうなことでは長続きしないと思っております。将来も続くような形での対応ができるように支援をしていくと、そして頑張りたいという集落については、一生懸命応援をしていきたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 元気ムラのことですけれども、元気ムラのこと、私も本当によく勉強させていただきました。というのは、9月2日、公民館で9月3日に第5回秋田元気ムラ大交流会2016というのが、大仙市で開催されることになっていまして、それで、私にも行きませんかと声をかけてくださったのです。9

月2日にそこで持っていくものを作りたいのでぜひ来てくださいということで、私も何をしましようかと言ったら、エゴマの葉っぱを使ったお寿司を作りたいということだったので、そうですかと、そうなればもう下準備、私、その準備しておきますということで。それからホオズキ寒天を作るのだけれど、何かネーミングがないですかと言ったので、寒天は寒天でしょと、まあ、言ったのですけれど、でも、そこにやっぱり魅力をつけるそのネーミングというのが大事なと思って、秘境ホオズキ寒天という、秘境温泉というのがありますので、あそこだったら秘境でいいかなと思って、秘境ホオズキ寒天とネーミングして、それを県の方へ報告して、そういう卓上に置くのを作っていただいていたけれど、そういうのとか、コハゼ寒天、巻き寿司、或いはエゴマの葉っぱで作った海苔巻き、太巻き、それからエゴマの葉で巻いた味噌巻き、これを9月2日に皆さんで作りました。

でも、さっき高齢者、高齢者と言いますけれど、私以上の人が一人いて、メンバーはあと皆私以下の若い人達でした。だから、どこを見て高齢者と村長は言っているか分かりませんが、全然違います。一番活力あると思います。元気ムラ、他の地区よりも、私はそこで自分自身が本当に元気になって、あ、この交流をして私も頑張ろうと思いましたが、それから、初めからこうだったのですかと聞いたら、そうじゃないです。

車の2時間の旅でしたから、話をすると、5回目ですけれど、最初はこの元気ムラ、1回、2回は何か出ているのかを全部散策で味見して回ったということですが、しかし、それでは駄目だと、味見しただけではモノにならないということで、何か作ろうということで、今回3回目だったのですけれど、私からはエゴマ持っていきましようかということは、ひとつも提案していません。

彼らのそういう声を大事にしたかったので、できれば村で進めているエゴマの葉っぱを使った料理を考えたいのですけれどという電話だったので、初めて私は、では、こういうふうにしませんかという、だから、彼らの声を私は待っていたのです。私は、押し売りはしていない。そういう環境で、全部上小阿仁村を紹介する。だから、隣には東成瀬村のグループも来て、いろいろ交流して、私もさせていただきましたが、持っていった品物、全部、一番先に、売っているわけでもないですけれども、試食コーナーで出ていきました。

三種町でお茶も持ってきていたので、これだったら私達もお茶を持ってくればよかったねという、そういう話が次々と広がっていきます。

それでさっき、千葉のスーパーの話もしてありましたけれども、今年も出るのでかと言ったら、当番で出るようで、県から声がかからない限り進めないのだと言っていました。

だから、上小阿仁で、そう簡単に行けないですねという話もしたのですけれど

ども、今年は栗が不作になり、クルミも今のところ不作で、でも何をしようかと、それで楽しみに、今回は私に、そういう塩漬けを作ってもらったけれど、自分達でやって、次回につなげますというふうに、前向きです。

ですから、高齢者、高齢者と言っても、今の高齢者というのは、どこを高齢者というのか分からないですけれども、皆元気で、本当に私より若かったです。ですから、さらに彼等は、今挑戦しているものは桜餅の葉っぱです。それを種から植えて、今、桜の葉っぱを収穫して、それを塩漬けして、できれば売れる、特産にしたいというふうにして、今、挑戦しています。

入れば入るほど、これもやりたい、あれもやりたいというふうに考えていますので、やっぱり南沢も桜を植えてもっと賑わしたい。そこには害虫とかなんかは、彼等は考えていません。要するにそういうのをやって、何か出たらまた一歩進んでみよう、皆で頑張ってみようという、そういう声があるのです。ですから、小田瀬地区にだって、数えなかったですけれども、桜の木は30本ぐらいいあそこの土手に並んでいますよ。

ですから、もう半分以上は村でやって植えるとか、そういう地区をやって増やしていかない限り、もう前向きに待っていると、あの害、この害で言ったら全然進歩ありません。南沢集落、リーダーもしっかりしているし、前向きだから怖いもの知らずというところもあるかも、失礼ですけれども、そういうところもあるので、それに引っ張られて皆進んでいると思うのです。

私は、今、そうやって声をあげているのです。ですから、後ろ向きでしなければいけないとか、小坂町、或いは大館、北秋田、そういうところでは皆有名になっているものが出ています。それに乗り遅れないように頑張らなければいけないですけれども、足元ができていなくて、何で進めようとしているのですか。私は、あの南沢を本当にほれ込んでいるので、ぜひ、あそこ、皆地域で人を呼べる環境にしようしているのです。或いは春の桜祭りをしようとか、そういう計画をたてているところに、なぜ村は乗ろうとしないのですか。もう一度考えてみてください。村長、聞きたいです。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 最初に、高齢者については、こちらでお話をさせていただいた段階で、南沢地区の方々が高齢化していますというふうな言い方をされましたので、そういう意味でのお話をさせていただきました。

ただ、もうひとつは一般論的に65歳以上について高齢化率どうのこうのという話がありますので、そういう意味でチョッと失礼な言い方をしてしまいましたので、お詫びを申し上げたいというふうに思います。

それから、特産品、元気ムラに関しては毎年いろんな形で、各地区で大会を

開いていまして、各元気ムラの方々がいろいろなものを持参しながら、いろいろなお話をしています。それによって、商品化したものもあります。ですから、今回いろいろな形でいろいろなものを試作品として持ち寄って、今回、議員がホオズキ寒天とか、コハゼの寒天、それからエゴマの葉の巻き寿司等を、ネーミングをつけていただいて対応していただいているというふうなことで、本当に良かったと思っております。

そう意味では、押し売りのようにドンドンそういう地区に入らせていただいている地区を応援していただきたいというふうに思います。

桜の木の植栽については、これは各地区でいろいろな形で対応してきた経緯がありますので、できればそれをまた伸ばしていただきたい。その伸ばすための支援については、やはりこれからも村としてもドンドンやっていかないといけないというふうに思います。

そして、もしかしたら桜の葉っぱを使った形での特産品も、食べ物もできてくるのかもしれませんが。そういった形で、いろいろな形でその地区のものが拡大していくように、商品が拡大していくように、ぜひ、応援をしていただければというふうに思います。村も一生懸命応援をさせていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 応援と言ひましても、私は、応援は自分の技術を生かすとか、そういうことだったりしますけれど、皆さんにこうやって紹介することが応援になるのですけれども、村で応援するというのは金額的なことです。気持ちだけでは応援につながりません。

やっぱり小さい集落ですと、南沢集落全体と元気ムラの会計は別々になっていますので、ですから、元気ムラでの収益では、お金があるからどこへでも行こう、頑張ろうというのが出てきますけれど、南沢全体での会計では、そういうふうにはできません。そういうグループで頑張っているところには、ぜひ、ただ応援するということ、人的応援ではなくて金額的な応援も伴わないと進めません。ぜひ、これからいろいろな意味で村長にあった時或いはこれを担当する観光、観光ですから、産業課長にあたるのかな、そういう方もよく耳で聞いて或いは職員を派遣して、どういう所が観光に当たるかとチョッと見てください。職員、全然知りませんよ。言っても伝わらないのだから。だから、そういうことも含めてぜひ南沢地区の元気ムラを見ていただいて、今何をやっているのだということを確認めて、目先のことだけでなく、20年先を見据えた、子ども達も将来ここに住みたいという村を作る必要があるのです。今元気なそこを、私たちは見習って応援していかないと大変なことになります。とにかく元気な南沢に観光スポットを当て、一体化していただきたいと思ひます。

以上です。